

「モノがコトに包まれる「場」のある世界」と

「モノだけからなる「場」のない世界」

日英語の「絵本」・「映画ポスター」の違いにもふれて

尾野治彦

1. 「場」のある日本語の「時」「場所」「背景」表現と「場」のない英語の対応表現
次の(1)(2)の例を見てみよう。

(1) But disaster struck one beautiful evening. (The Lying Carpet)
しかし、その美しい夜に、予想もしなかった悲劇がおきた。(『ほらふきじゅうたん』)

(2) We talked for a few minutes on the sunny porch. (The Great Gatsby)
うららかな玄関先で、しばらくぼくらは話し合った。(『グレート・ギャツビー』)

「時」「場所」表現の日英語の違いについては、「場」のある日本語であれば、まずもって、(1)の「時」、(2)の「場所」が「場」に見出された場合には、これらの表現は、「場の枠」の設定表現として文頭に位置されることになるが、「場」のない英語では、「場」に潜在的に存在する「場の枠」がなく、よって、「時」「場所」の表現が文頭にくる必要はないと説明される。

(1)(2)は日英語表現が対応する場合であったが、以下で見るように、日本語には「時」「場所」「背景」表現はあるのだが、英語には対応する表現が見当たらない事例が見受けられる。

以下がその例である。(網掛けの個所は対応する英語表現がないことを示す。)

(3) a. その日は夕暮れ頃から、急に北寄りの風が強くなった。(『凍える牙』)
At dusk the north wind suddenly picked up. (The Hunter)

b. It was Christmas Eve. (Christmas at the Toy Museum)
きょうは クリスマスイブです。(『おもちゃびじゅつかんのクリスマス』)

(4) a. So many, many things are Mystery. (Emily)
この世の中には、ふしぎななぞが、たくさん、たくさんあります。(『エミリー』)

b. It was a rainy gray morning, (The Quarreling Book)
どんよりくらいあさでした。そとはじゃあじゅあぶりのあめです。(『なかなおり』)

(5) あたりが、だんだん昼の色に近づいてきた。(『点と線』)

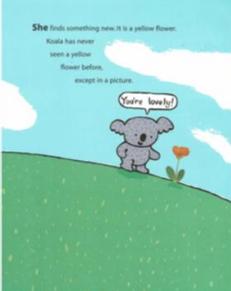
The light showed that it was getting on towards midmorning. (Points and Lines)

これらの例におけるように、日本語には「時」「場所」「背景」表現が現れるのに英語に対応表現が現れないのは、「場」の言語である日本語には「場の枠」である「時」「場所」「背景」が潜在的に存在しているのに対し、「場」のない英語では、「時」「場所」「背景」が潜在的に存在していないからであると説明される。

このような違いは、以下で見るように、絵本、映画ポスター、観光絵葉書にも見られる。

2. 「絵本」「映画ポスター」「観光絵葉書」の事例

次の例を見てみよう。

(6)  She finds something new. It is a yellow flower.
Koala has never seen a yellow flower before,
except in a picture. (Koala and the Flower)

おかの上で、とてもきれいな花を見つけました。

コアラは、こんなにきれいなものをみるのは、

うまれてはじめてでした。(『コアラとお花』)

この例で注目すべきは、日本語訳には、英語原文にはなかった「おかの上で」という表現が現れていることであるが、これは、「場」のある日本語では、〈おかの上〉という「場の枠」である「場所」が「視覚・感覚」的に把握されたためである。一方、「場」のない英語では、Figureである“She finds something new”に焦点が当てられ、Groundの「場所」を表す「おかの上」

は現われていない。

今度は、以下の、映画ポスターと世界の観光絵葉書を見てみよう。

(7) *The Only Game in Town*

『この愛にすべてを』(1970)



(8) *Ladies in Lavender*

『ラヴェンダーの咲く庭で』(2004)



ここでも、(7)(8)の英語版は、「場」のない、すなわち、「背景」のない、登場人物のモノだけの画像となっているのに対し、日本語版はモノが「場」の背景に包まれたものとなっている。

(9) a.ローマのコロセウム



b.新緑の清水寺



(9a)の「ローマのコロセウム」の絵葉書は建物というモノだけに焦点が置かれているのに対し、(9b)の「新緑の清水寺」では、建物はコトである「場の背景」と共に把握されている。

3. 「モノがコトに包まれる「場」のある世界」と「モノだけから成る「場」のない世界」

これまで、日本語版と英語版における小説や絵本、映画ポスター、絵葉書における違いを見てきたが、「場」の有無によるこれらの違いは、これ以外にも、社会生活、日常生活等における「個人」(モノ)と「組織・集団」(コト)に対する捉え方の違いにおいても見受けられる現象である。例として、日本人は周囲の人の服装・行動等に影響を受けるのに対し欧米人はそうでないこと、会社においては日本人は個人(モノ)よりも会社の組織(コト)を優先するが欧米人はそうでないこと等のことがあげられる。また、「美」に関しては、日本人にとっての「美」とは、建物であるモノが「場の背景・状況」のコトと共に把握対象とされた「新緑の清水寺」のような「状況の美」であるが、欧米人にとっての「美」とは、モノだけが把握対象とされた「ローマのコロセウム」のような「実体の美」である。

このような日本語・日本人の行動様式の特徴と英語・欧米人の行動様式の特徴は、それぞれ、「モノがコトに包まれる「場」のある世界」「モノだけから成る「場」のない世界」として捉えることが可能であると思われる。この根底にあるのは、それぞれ、「モノをコトの一部」として捉える日本語の「視覚・感覚」的な認知様式であり、「モノを独立したモノ」として捉える英語の「Figure/Ground」的な認知様式である。サピア(1983)は、「言語は人間の行動のすべてにあまりにも深く根ざして、我々の意識的行動の機能面で、言語が深くその役割をはたさないような部分は少しもない」と述べているが、ここでの「言語」を「言語」の「認知様式」として捉えることは十分可能であるように思われる。

主要参考文献

サピア, E. 1983. 『言語・文化・パーソナリティ』(平林幹郎訳), 北星堂, 東京.

高階秀爾. 2015. 『日本人にとって美しさとは何か』筑摩書房, 東京.

(7) 英語版 http://www.impawards.com/1970/only_game_in_town.html

日本語版 [「The only game in town movie posters」の検索結果 - Yahoo!検索 \(画像\)](#)

(8) 英語版 [Ladies in Lavender Movie Posters From Movie Poster Shop](#)

日本語版 <http://latifa.blog10.fc2.com/blog-entry-108.html>

(9a) [A Journey of Postcards: The Colosseum | Italy \(postcardstravelaroundtheglobe.blogspot.com\)](#)

(9b) [「postcard 清水寺」の検索結果 - Yahoo!検索 \(画像\)](#)